

基 調 講 演

高橋 慶壮
奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野

抄録

政府は3月13日からマスク着用を「個人の判断に委ねる。」方針にし、5月8日からCOVID19を2類から5類へ変更する準備を進めています。3年に及ぶコロナ禍が一区切りつきそうです。

皆様のご支援とご協力を頂き、日本顕微鏡歯科学会第19回学術大会・総会を福島県で開催することができました。昨年につき、現地開催とオンデマンド配信によるハイブリッド開催です。

大会テーマは「顕微鏡を活用した精密歯科治療」です。歯科医療における精密治療を考えた時、顕微鏡の使用は欠かせません。歯科における precision medicine について議論する場を提供できれば幸いです。一昨年より、J. Personalized medicine の special issue 「Precision Medicine for Oral Diseases」の guest editor を務めています。
https://www.mdpi.com/journal/jpm/special_issues/Medicine_Oral_Diseases

特別講演では、大阪公立大学大学院医学研究科の岡田充弘先生と岡山大学名誉教授の渡邊達夫先生にご講演頂きます。教育講演では、会員の皆様にとってお手本になる精密治療を神奈川歯科大学の石井信之教授および月潟歯科クリニックの菅原佳広先生からご教示いただきます。

シンポジウムⅠ（マイクロスコープを利用した精密歯科医療の現状と展望）では、会員の内外から演者を招聘いたしました。いろんな立場から顕微鏡歯科医療について語って頂きます。一方、シンポジウムⅡ（マイクロスコープを用いた精密な歯周治療）では、顕微鏡を使用した歯周病診断と治療、さらに歯周形成手術について講演を頂きます。

本大会の一般口演12題とポスター発表9演題で、米国、台湾および中国から海外演者に参加いただきますので、活発なご討議を期待しております。演者は約20年前から、ルーペと顕微鏡を使用して歯科診療を行っています。顕微鏡を使用する症例は主に歯内療法ですが、歯冠形成、歯根破折あるいは歯周ポケットの精査と治療にも有効だと思います。一方、個人的な経験からは顕微鏡の使用が有利ですが、科学的な証明には、長期的な比較研究が必要です。また、治療の質、コストおよびアクセスの点から考えると、質とコストが上昇するでしょうから、顕微鏡歯科医療を普及させるには、社会に向けて精密歯科治療の価値を発信することが不可欠です。

新しい知識や技術を得ることを「学び直し」あるいは「リスキリング」として、政府は約1兆円の予算を計上しました。人生100年時代と言われる昨今、歯科医師の臨床に顕微鏡が果たす役割は高まり、歯科医療における精密治療のニーズが高まると予想されます。本学会が顕微鏡を使用する歯科医療のメンター的な役割を果たしてくれることを期待します。

最後に、皆様には至らないことから何かとご迷惑をおかけしますが、今大会を通じて日本顕微鏡歯科学会が益々発展することを祈念しております。また、学会参加に加えて福島
の自然と食をお楽しみいただければ幸いです。

略歴

1988年 岡山大学歯学部歯学科卒業

1992年 岡山大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）

1993年 英国グラスゴー大学歯学部（Denis F. Kinane 教授に師事）

1996年 岡山大学歯学部助手

1999年 明海大学歯学部講師

2006年 明海大学歯学部助教授

2007年 奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野教授 現在に至る

<https://researchmap.jp/kazuokeiso2021>

所属団体・学会

日本歯周病学会理事

日本歯科保存学会理事

日本顎咬合学会指導医

日本歯内療法学会会員

日本顕微鏡歯科学会会員

米国歯周病学会(AAP)国際会員

国際歯科研究会(IADR) 会員